今月の表紙

　3月3日は桃の節句、うれしいひな祭りですね。皆さんは「つるし」を見たことがありますか。

　つるし雛は、端切れで作った人形などを、竹ひごの輪から赤い糸に下げてつるした飾りです。

　「きっこまざき教室」では、3月3日㈭まで「大崎市内5駅 つるし雛巡りの旅」と題し、食の蔵 、JR古川駅、道の駅おおさき、三本木道の駅やまなみ、あ・ら・伊達な道の駅で、つるし雛を展示しています。

　食の蔵 醸室の寺子屋ホールは、約9千点のつるし雛とミズキから下げられた、帯揚げで作成した毬飾りで華やかに彩られています。

　一つ一つ表情の異なるかわいらしいつるし雛が、桃の節句とともに春を感じさせます。

写真：幸せを呼ぶきっこちゃん

広報おおさき3月号2022 No.192

目次

4　　　新型コロナウイルスワクチン関連情報

6　　　創業支援～あなたの夢、応援します～

9　　　CITY TOPICS

10 Discover Osaki

11　　 Osaki Culture

12　　　オオサキプレイガイド

14　　　くらしの情報　大崎市地域交流センターに関するお知らせ　ほか

24　　　子育て支援情報

25　　　育児相談・乳幼児健診

26　　　相談コーナー

27　　　休日救急当番医　ほか

28　　　古川学園高等学校女子バレーボール部第74回全日本バレーボール高等学校選手権大会準優勝報告会

第20回

khbみやぎふるさとＣＭ大賞　アイディア賞作品を見てください

1月3日に東日本放送で放映された「第20回みやぎふるさとCM大賞」において、大崎市が作成したコマーシャル「トマト（君と）いつまでも」が「アイディア賞」を受賞しました。

　みやぎふるさとCM大賞では、宮城県内の自治体が自身のまちの魅力・情報・自慢などをテーマに作成した30秒のコマーシャルが放送され、khb大賞を含め11の賞が決定しました。

　アイディア賞を受賞したコマーシャルは、東日本放送で、年間20回放映されます。You Tubeで、ぜひコマーシャルを見てください。

問い合わせ 秘書広報課広報広聴担当 電話番号23-5023

パタ崎さんの食育コラム

その11　地産地消って何だろう！

問い合わせ 世界農業遺産推進課 電話番号23-2281

みんなは、地産地消って聞いたことがあるかな？

地産地消とは、地域で生産したものを、その地域で消費することだよ！

地産地消の良いところを教えるね。

❶旬なものを新鮮なうちに食べられる

❷いつ・どこで・どんな人が作ったものか分かるので、安心して買うことができる

❸食べ物を運ぶ距離が短いので燃料を多く使う必要がなく、地球に優しい

❹自分たちが暮らす地域を知るきっかけになる。

食事のときや、食材を買いに行くときは、その食材がどこで採れたものかにも注目してみると、地元で採れる食材にはどんなものがあるのか、発見できるよ！

家庭では全ての食材を地元産にするのは難しいから、外国産のものより国産のもの、近い県のものを選ぶなど、少しずつ無理なく地産地消を食生活の中に取り入れてみよう！

オオサキワンダーミュージアム　人と大自然の青空博物館

vol.23　次期世界農業遺産アクションプランを策定しています

問い合わせ 世界農業遺産推進課自然共生推進担当電話番号23-2281

　大崎圏1市4町に広がる「大崎耕土」が平成29年に世界農業遺産に認定されてから、来年度で5周年を迎えます。

　認定と同時にスタートし、令和3年度を終期とした第1期世界農業遺産アクションプラン期間中は、地域資源の見える化や、ジアスツーリズムの造成、認証制度の構築、副読本の制作など、世界農業遺産の活用に向けた基礎作りを実施しました。

　現在、令和4年度から8年度までの5年間のアクションプランについて、行政や関係団体、地域の実践者などから構成される各種会議において、推進の方向性を議論しています。これまでの取り組みをより発展させた、農泊を軸としたツーリズムや、屋敷林「」の保全活用、認証制度の拡充、次世代人材の育成などのほか、SDGsとの関連や気候変動への対応など、これからの時代に対応した取り組むべき方向性を示していきます。

　今後も、農業遺産資源を単に保全するだけではなく、これまで整備した各種コンテンツなどを積極的に活用し、保全機運の醸成につなげる「守るために活かす」をコンセプトにし、地域全体の活性化を図ります。

写真：道の駅おおさきでの認証品のプロモーション

写真：学生への水田生きものモニタリング講習

市長コラム　天地人 　城下町再生！

東日本大震災から11年目の春を迎えます。

復興まちづくりの象徴である「中心市街地復興まちづくり」が総仕上げの段階を迎えました。

古川七日町西地区第一種市街地再開発事業が竣工いたします。

分譲マンションも順調に販売され、入居が始まります。中央公民館機能を兼ね備えた地域交流センターも間もなく開所いたします。

　本丸である市役所本庁舎も今年の11月には竣工、令和５年5月の供用開始を予定しております。

　周辺道路や無電柱化も整備されます。

　最近、市役所を訪れる方々からも、「都会的だね！」「素敵なまちに生まれ変わったね！」「ここで暮らしてみたいね！」と、称賛の声が上がっております。

ヨーロッパのまちづくりは、まちの中心に教会や広場があり、その周辺に商店街や住宅が形成されております。

　日本のまちづくりは、かつては、お城を中心に町割りが行われ、城下町を形成しておりました。

　古川七日町の歴史は、伊達政宗に古川城を任されたが、戦乱で荒廃した領民に安住と安定を与えるために、を開きました。現在まで古川として受け継がれておりますし、七日町の地名の由来でもあります。

　コロナを体験した日本は、田園回帰が加速しております。

　大崎市が「天の時」「地の利」を活かす時です。

　大事業完成を契機に、時代を伝え未来を拓くまちづくりへ、挑みを起動してまいりましょう。